

2016年12月期 決算説明資料

サイオステクノロジー株式会社

(東証二部 : 3744)

2017年2月2日

目次

- I 2016年12月期 ハイライト**
- II 2016年12月期 業績の概要**
- III 2016年12月期の取り組みの振り返り**
- IV 中期損益計画および通期業績予想**



2016年12月期 ハイライト

トピックス

1

2015年に子会社化したキーポート・ソリューションズ (以下、KPS)、Profit Cube (以下、PCI)により
Fintech*に進出

2

人工知能技術への投資を推進
SIOS iQ*新バージョン発表

3

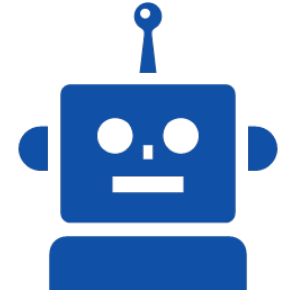
OSS*、LifeKeeper*、MFP向けソフトウェア製品*
等の既存事業伸長で盤石な収益基盤を確立

※ 「*」を付した用語につきましては、32ページに解説を記載しております。

生まれ変わるサイオス



売上高100億円をベースに次の
ステージへアクセル全開



Fintech、人工知能技術で
業界をリード

Re
born!



OSS、LifeKeeper、
MFP向けソフトウェア製品
による盤石な収益基盤



コンプライアンス体制強化で
高い信頼を実現

Ⅱ

2016年12月期 業績の概要

2016年12月期 業績 (連結)



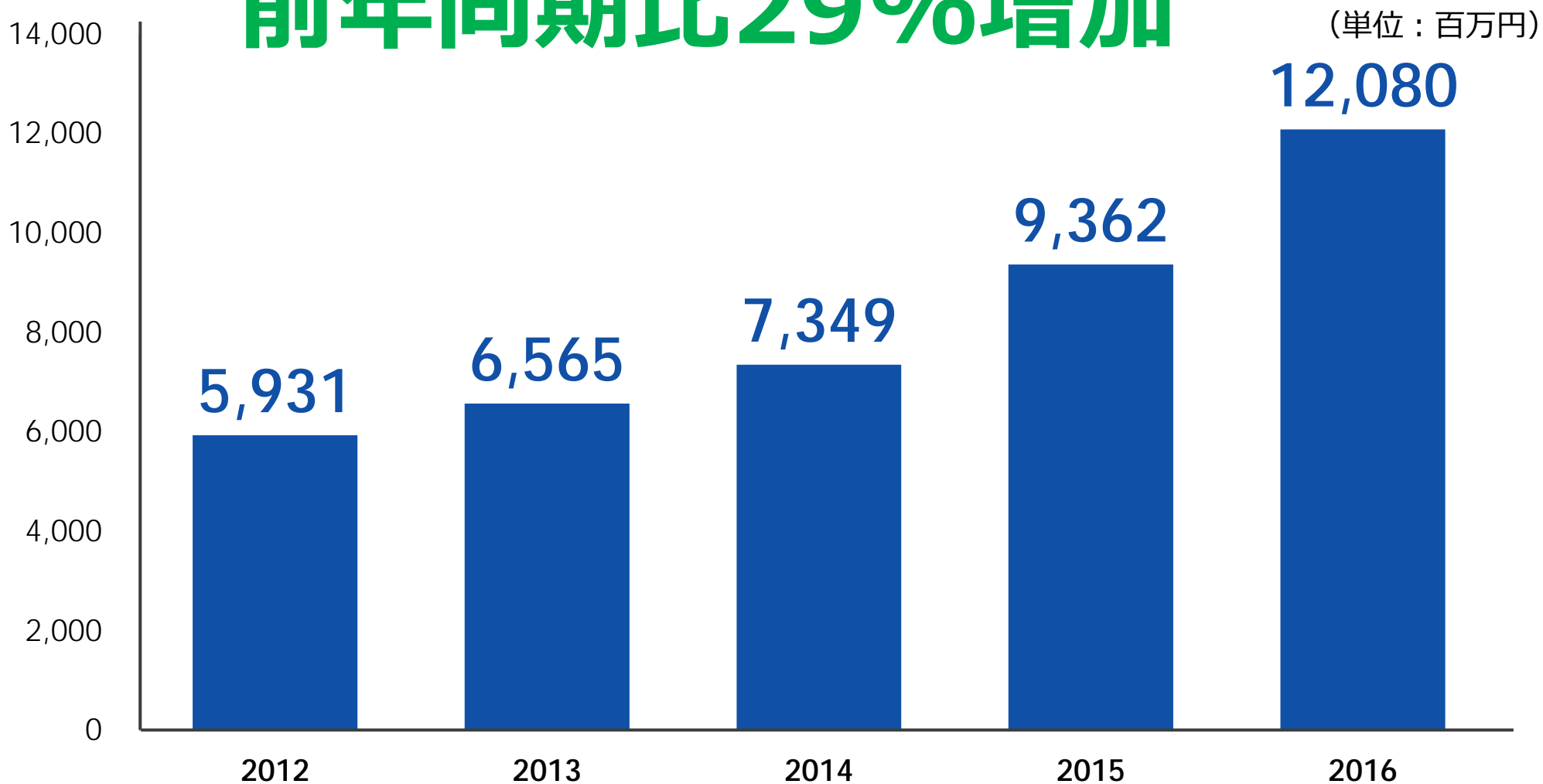
(単位：百万円)

	15年12月期	16年12月期	差額	前年同期比
売上高	9,362	12,080	+2,718	+29.0%
売上総利益	3,351	4,367	+1,016	+30.3%
営業利益	△111	474	+585	—
経常利益	△137	389	+526	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△186	254	+440	—
EBITDA	△45	653	+698	—

※EBITDA・・・営業利益+減価償却費+のれん償却額

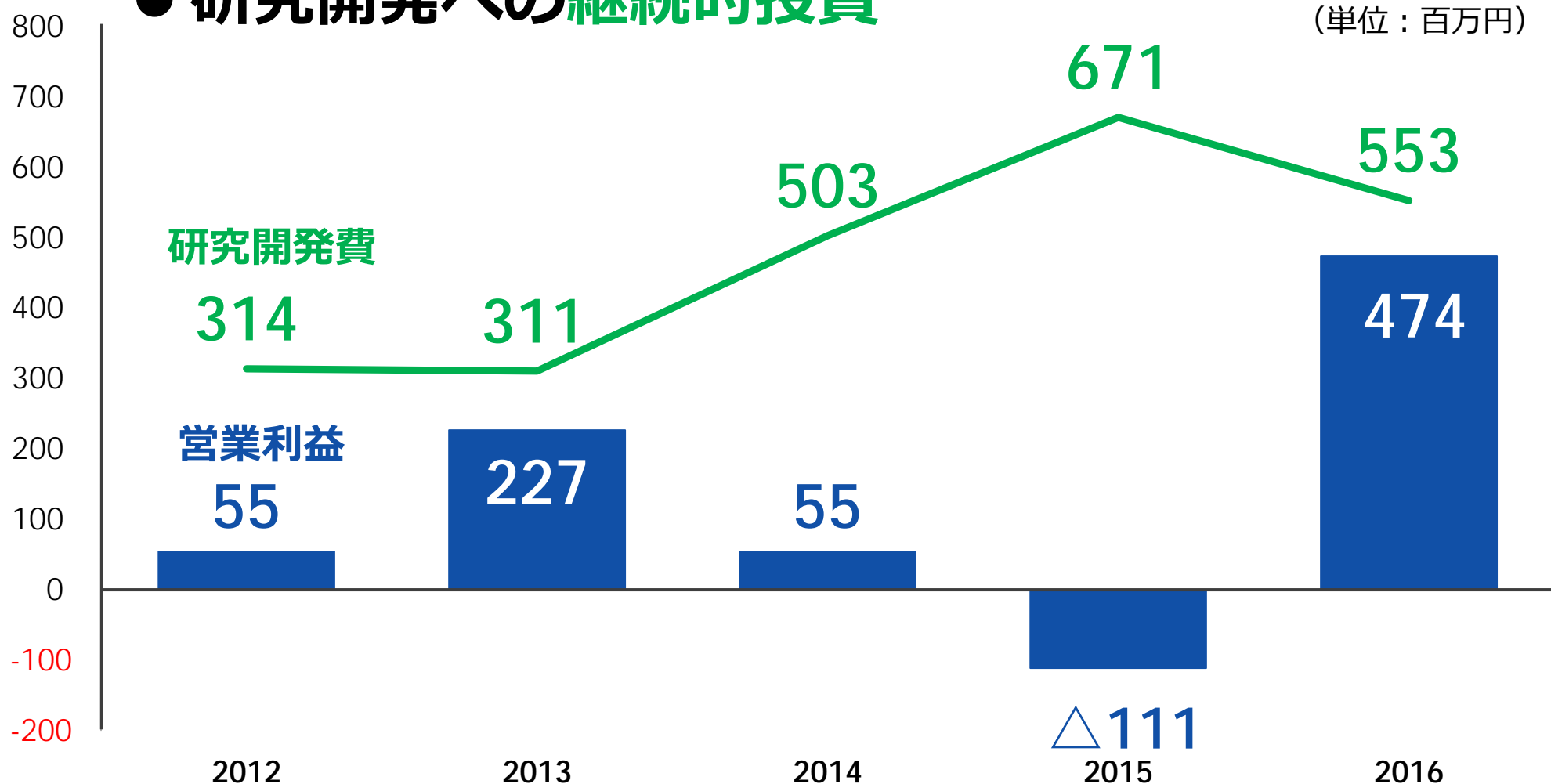
連結売上高の推移

前年同期比29%増加



連結営業利益および研究開発費の推移

- 営業利益は前年同期比**585百万円増益**
- 研究開発への**継続的投資**

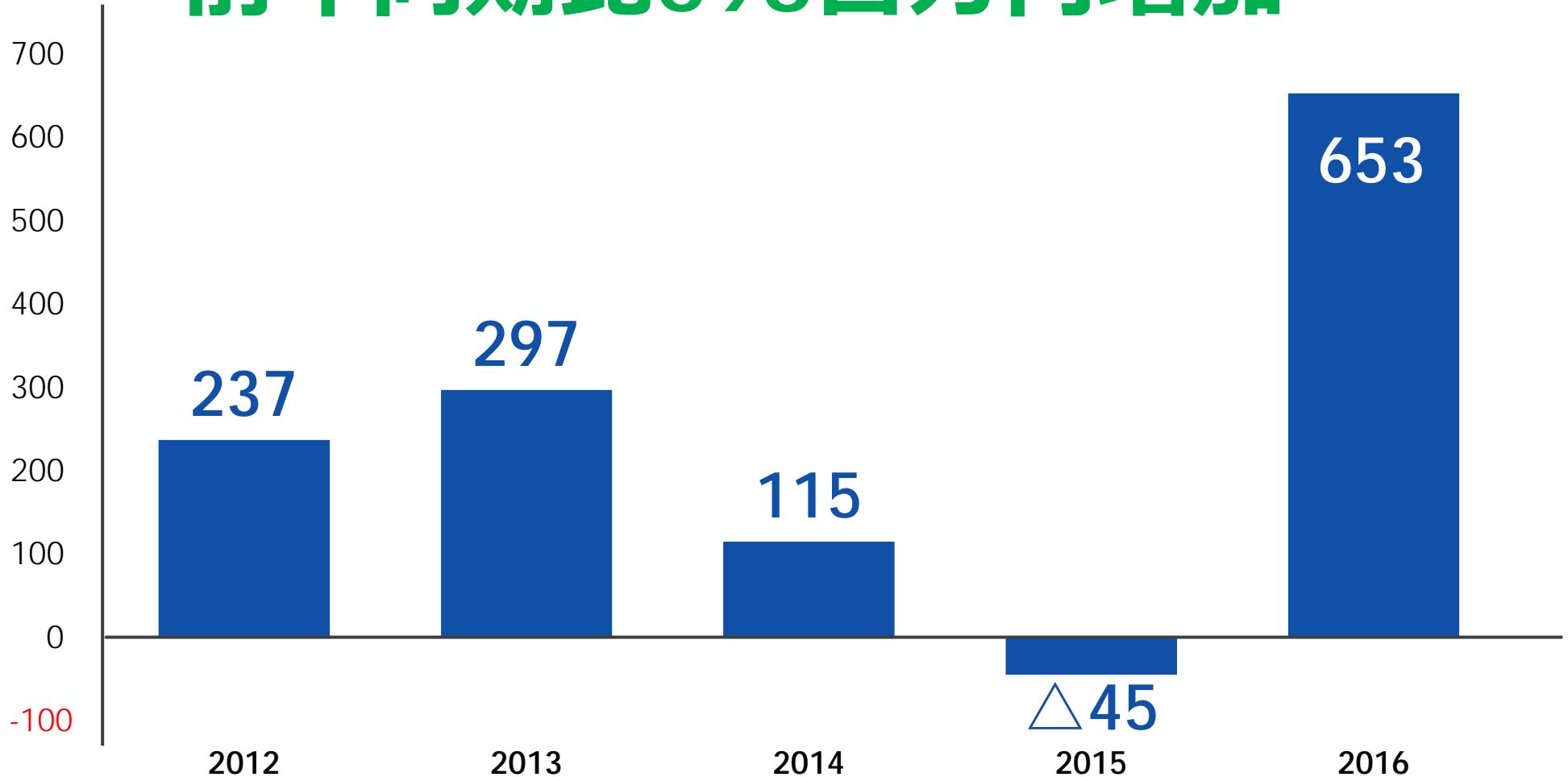


連結EBITDAの推移

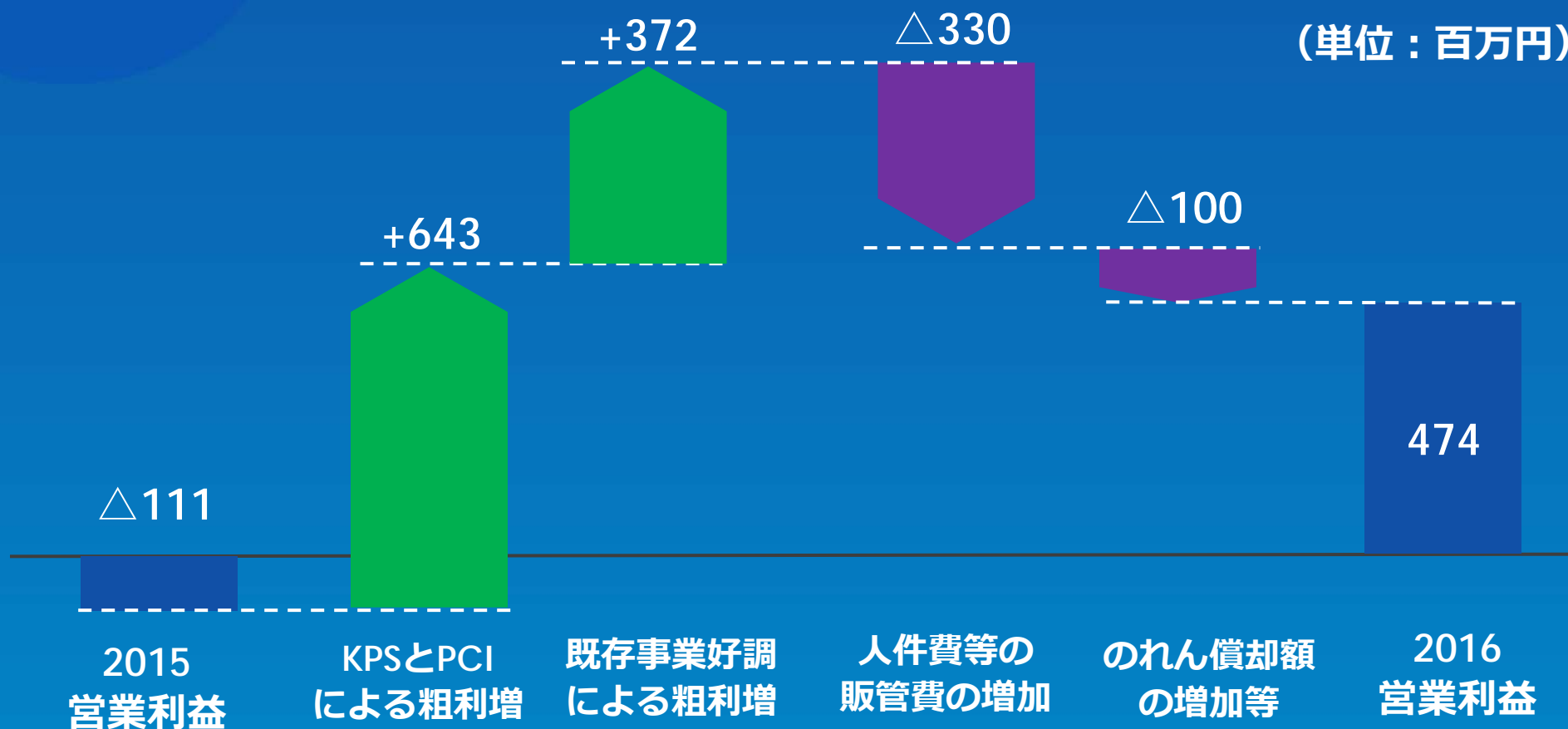


前年同期比698百万円増加

(単位：百万円)

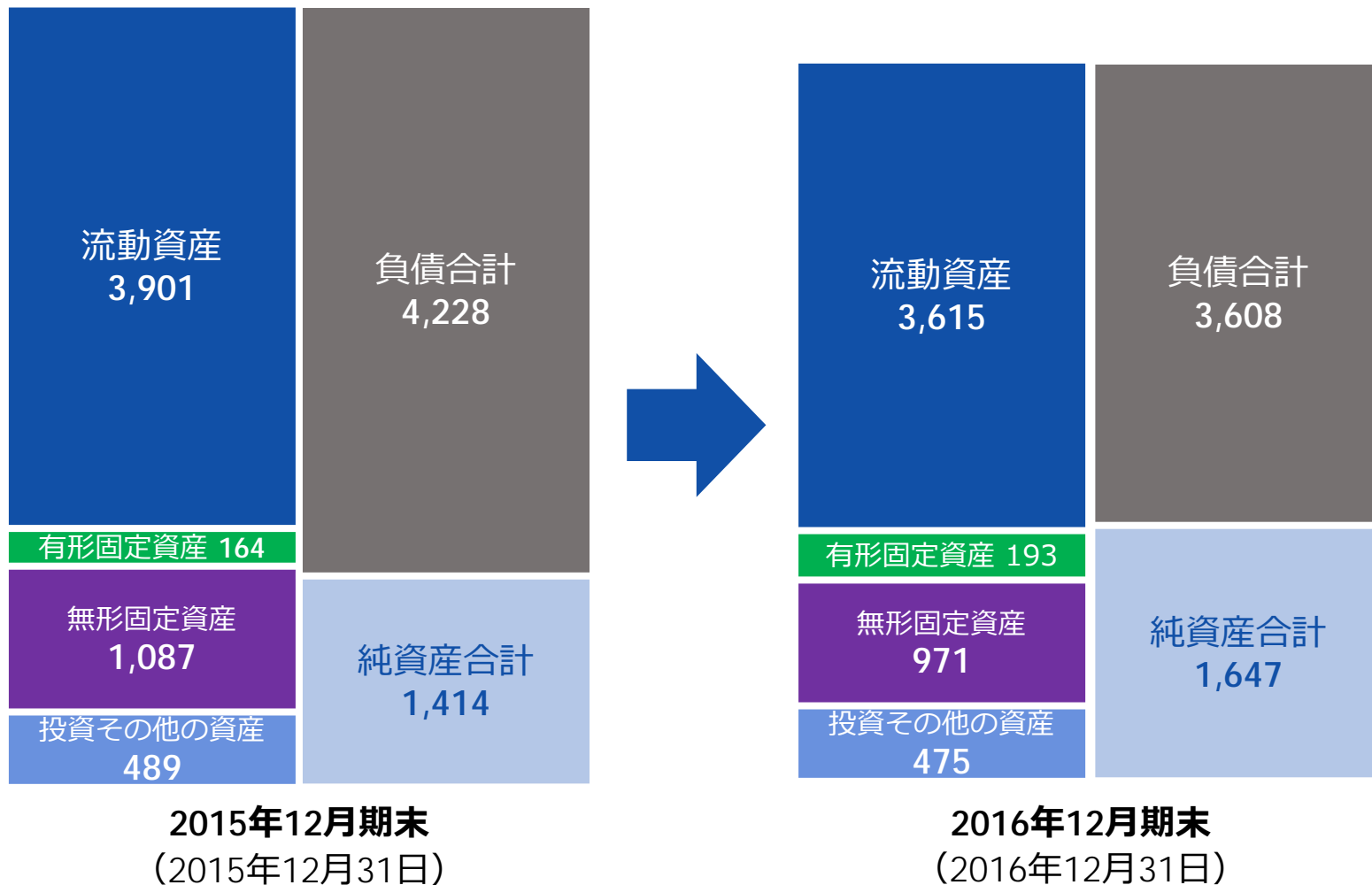


KPSとPCIの子会社化、既存事業の増収に伴う粗利増が寄与し、販管費増加を吸収して営業利益は大幅増益

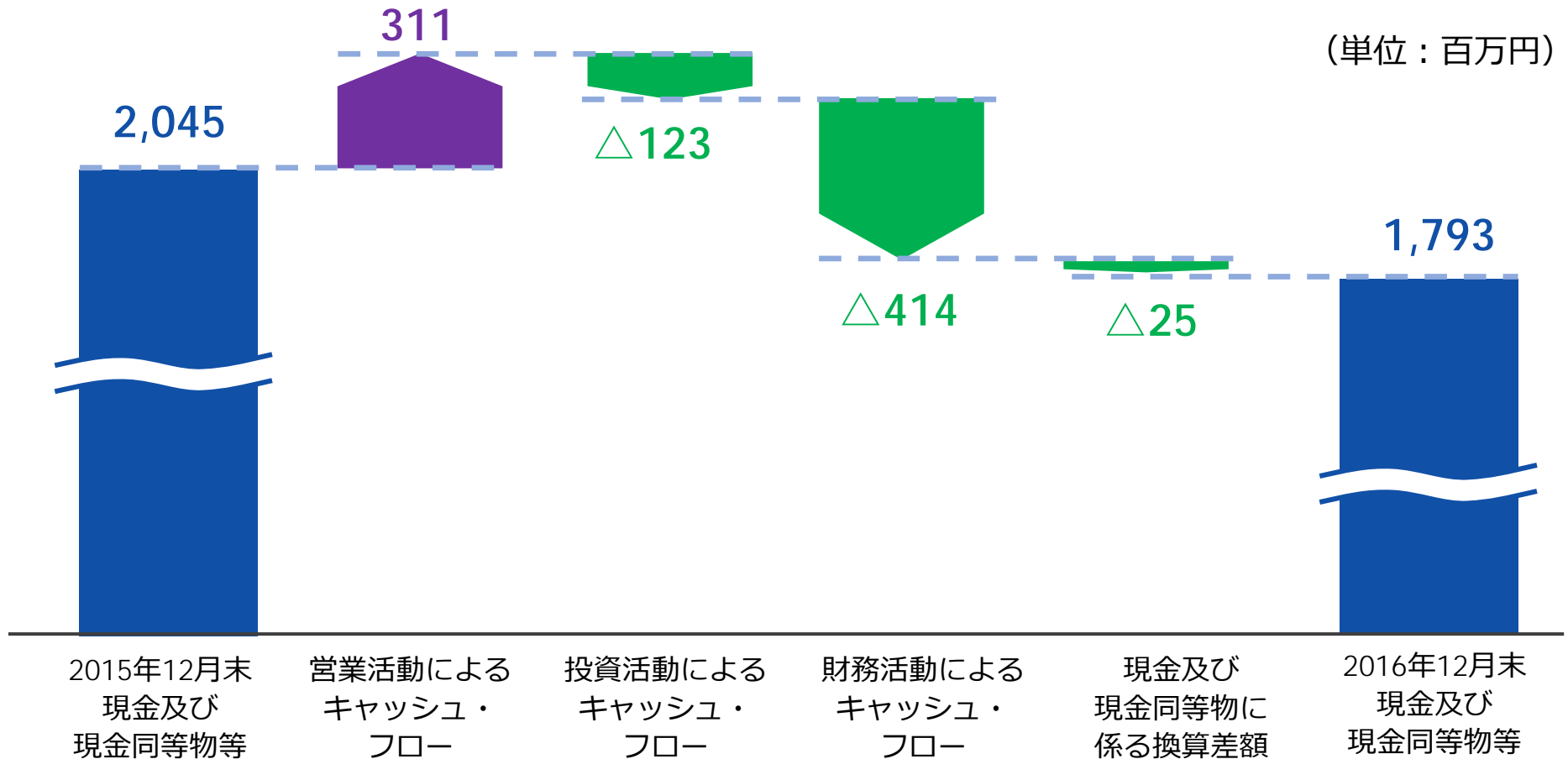


貸借対照表 (連結)

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー（連結）



- 短期借入金（213百万円）および長期借入金（181百万円）の返済等により、現金及び現金同等物残高は前年比251百万円の減

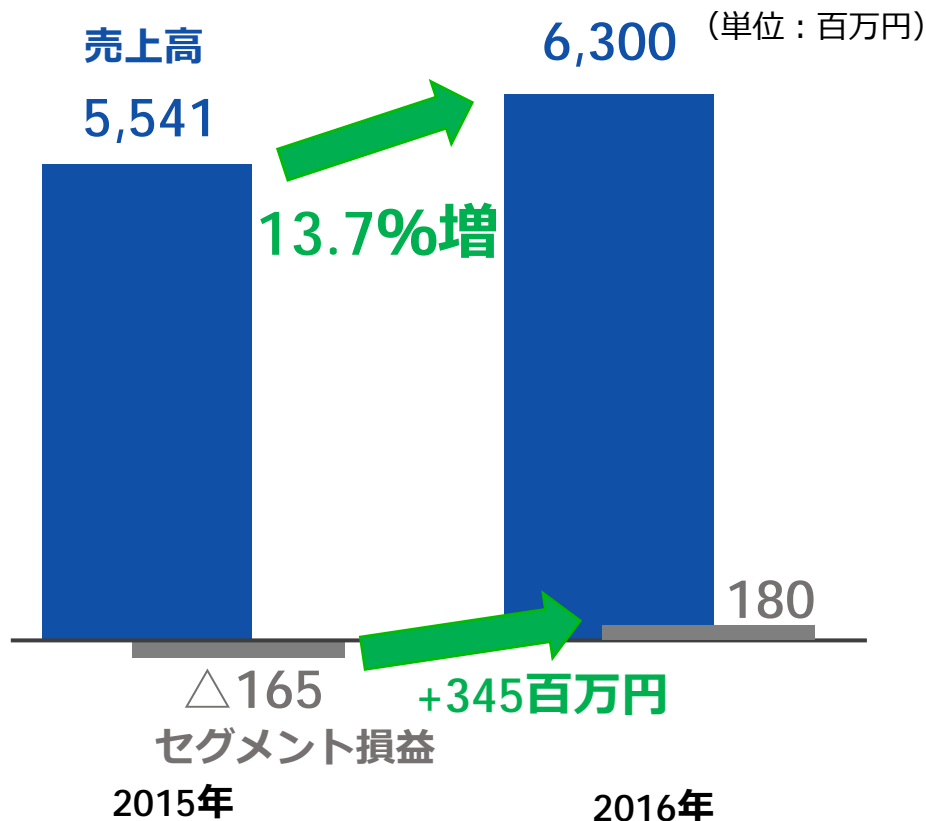
オープンシステム基盤事業

売上高

6,300百万円（前年同期比 13.7%増）

セグメント利益

180百万円（前年同期は損失165百万円）



売上高

国内

- 当社主力製品の「LifeKeeper」は順調な増収
- Red Hat, Inc.関連商品の販売は好調な増収
- OSS サポートサービスやOSS関連商品は好調な増収

海外

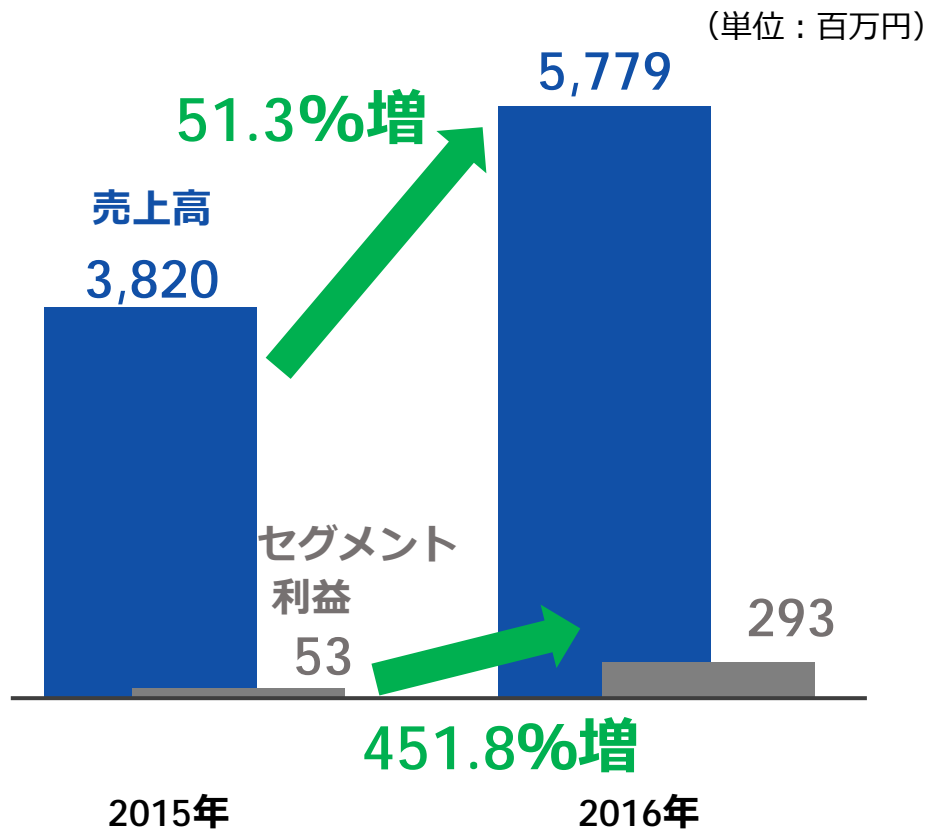
- 米州、欧州、アジア・オセアニア地域は順調な増収

セグメント利益

- 機械学習技術*を用いたIT運用分析ソフトウェア「SIOS iQ」の研究開発を継続
- 既存事業が順調に推移し、黒字化

アプリケーション事業

売上高	5,779百万円（前年同期比 51.3%増）
セグメント利益	293百万円（前年同期比 451.8%増）



売上高

- KPS、PCIの子会社化により**大幅な増収**
- MFP向けソフトウェア製品は**順調な増収**

セグメント利益

- KPS、PCIの子会社化により、人件費等が増加
- 売上高の伸長による売上総利益の増加がこれらの費用を吸収



2016年12月期の 取り組みの振り返り

中期経営戦略の基本方針

**1 Fintechを含む
新たな領域での新規事業創出**

2 継続的な研究開発投資

3 コアビジネスの競争力強化

① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

「サイオスAI相談室」、
「サイオスAIアカデミー」の提供により、
機械学習や人工知能技術の業務への
適用を支援

① Fintechを含む新たな領域での新規事業創出

2016年8月「サイオスAI相談室」

2016年10月「サイオスAIアカデミー」を提供開始



サイオスAI相談室



8月
提供開始

- **リスクと投資コストを最小限に抑えつつ**
お客様が主体となって
効率的・効果的に**機械学習**や**人工知能技術**を業務に適用することが可能



サイオスAIアカデミー



10月
提供開始

- 事業会社の情報システム担当者等を対象とした「**機械学習入門コース**」を提供
- 機械学習や人工知能に関する知識や利用ノウハウを取得することが可能
- サービス提供以来、**5回連続 満席**
- 受講者の**満足度は約90%**で大好評

② 継続的な研究開発投資

機械学習技術を用いたIT運用分析
ソフトウェア「SIOS iQ」の
新バージョンを発売

② 継続的な研究開発投資

2016年8月 機械学習技術を用いたIT運用分析ソフトウェア
「SIOS iQ v3.8」をリリース

+ Performance Forecasting ダッシュボード機能追加

1週間先までに発生する可能性のある
性能問題を予測し、関連するオブジェクトの
相関関係、曜日・時間帯などを表示



これにより問題の深刻化を未然に防ぎ、
より安定した仮想環境の運用に
役立てることが可能

問題を予測



相関関係・曜日・時間帯を表示

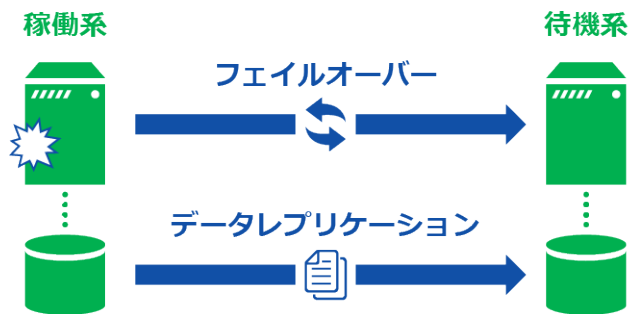


③ コアビジネスの競争力強化

LifeKeeperにおいて、
様々なクラウド*環境に対応し、
システムの高可用性を実現

③ コアビジネスの競争力強化

LifeKeeperにおいて、クラウド環境への対応強化
クラウド環境でもシステムの高可用性を実現



? LifeKeeper とは? ?

システムの障害を監視し
障害時に業務を引き継ぐ
HAクラスターソフトウェア

+ 様々なクラウド環境に対応

→ Microsoft Azure、Amazon EC2他、
多数のクラウドに対応し、ニーズに合う
ソリューションを提供

+ 従来のアプリケーションの可用性レベルを
確保しながらクラウドへ移行可能

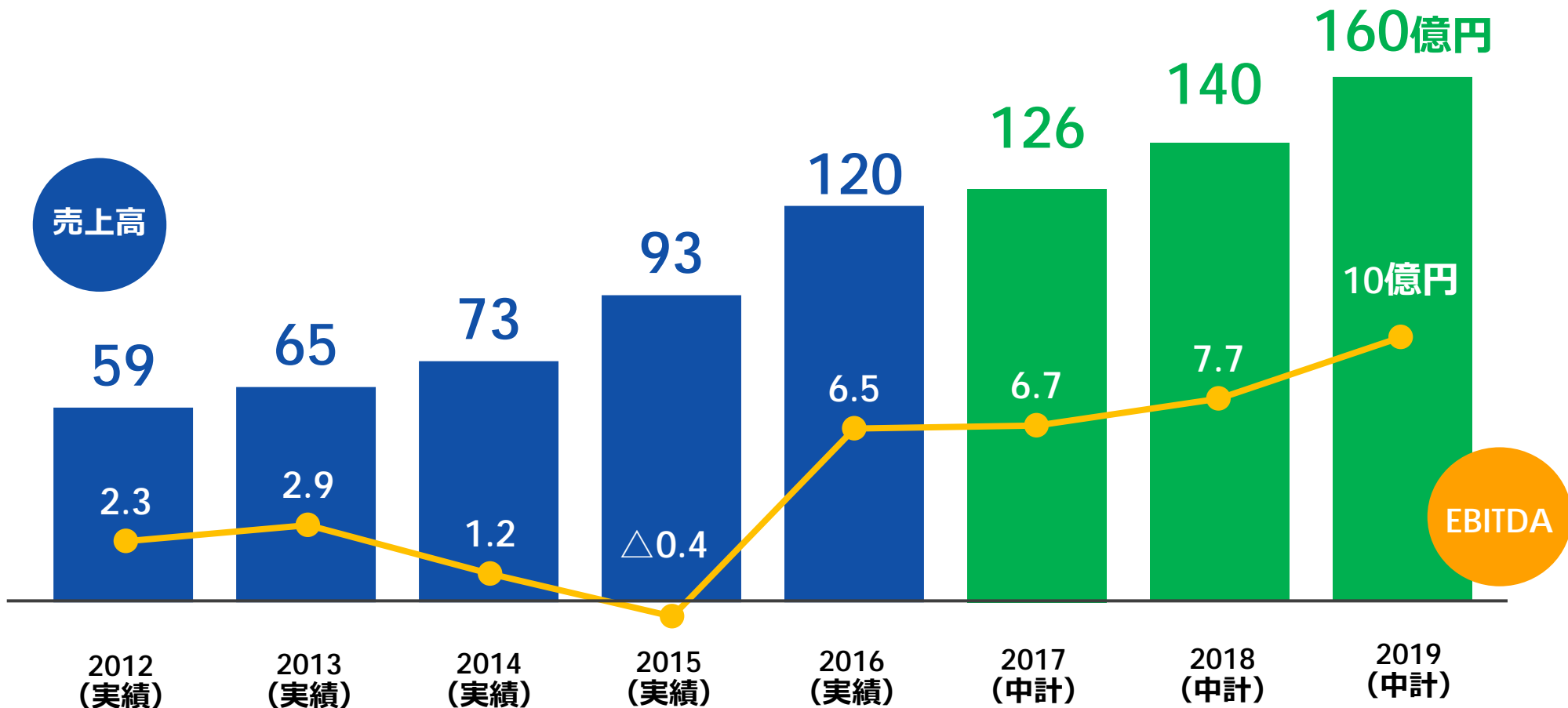
→ アプリケーションの可用性レベルを
オンプレミスと同様のレベルに保ち
ミドルウェアやアプリケーションにまで
可用性の対象を拡張

IV

中期損益計画 および通期業績予想

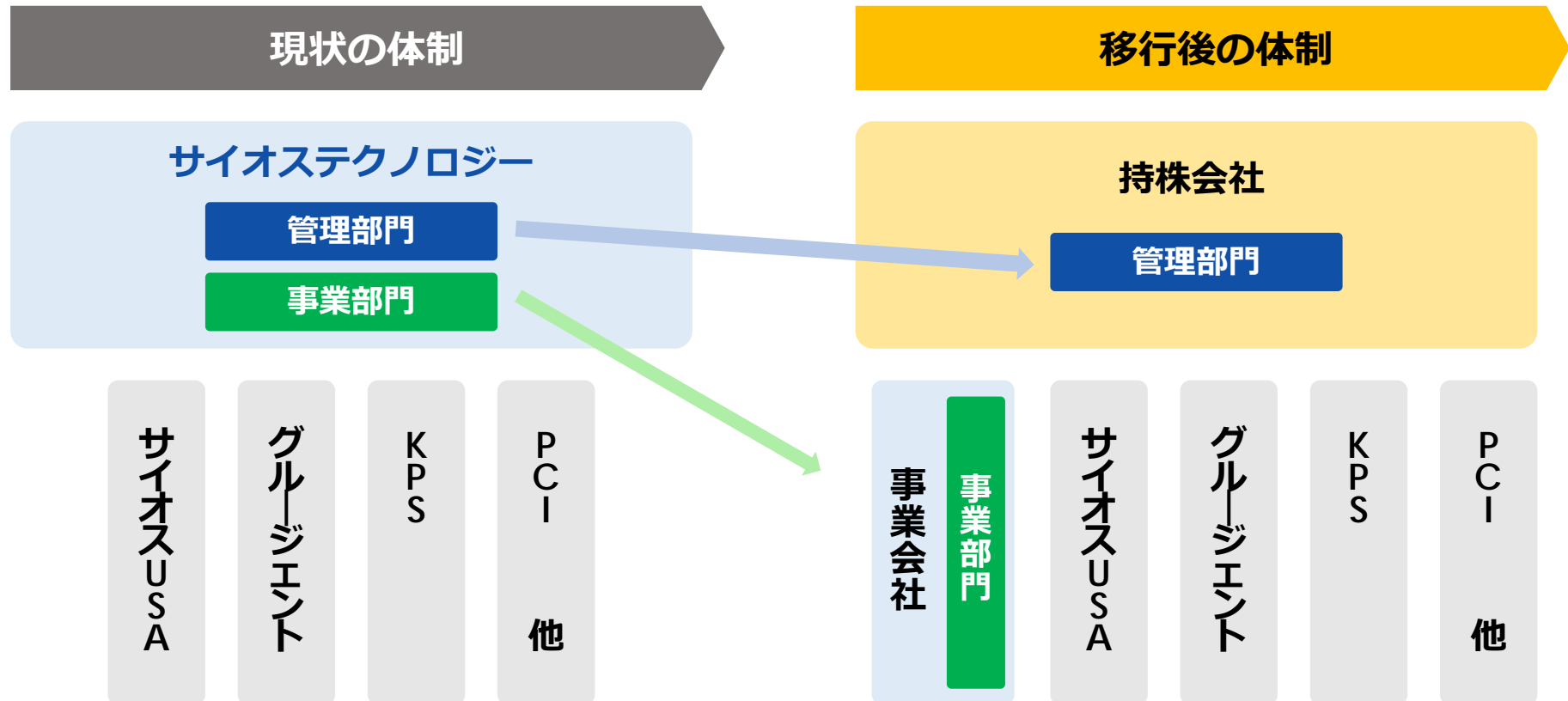
中期損益計画について

継続的な研究開発投資、マーケティング力、営業力の強化を推進し、2019年には売上高160億円、EBITDA10億円を目指す



持株会社体制への移行について

当社グループの今後のさらなる成長のため、各事業において環境変化への対応力を高めるとともに、グループ全体の企業価値を最大化する経営体制を構築する必要がありますと考え、2017年7月（予定）より、持株会社体制へ移行する予定です



持株会社体制移行の目的



① グループ戦略機能及びガバナンス・コンプライアンス機能の強化

- ・ **バックオフィス機能**を持株会社を集約し、グループ全体の**経営戦略立案機能**、及び**ガバナンス・コンプライアンス機能**を強化
- ・ 共通の業務やシステムの**標準化・集約化**を図り、コスト面も含めて**グループ価値を最大化**



② 各事業会社の持続的成長

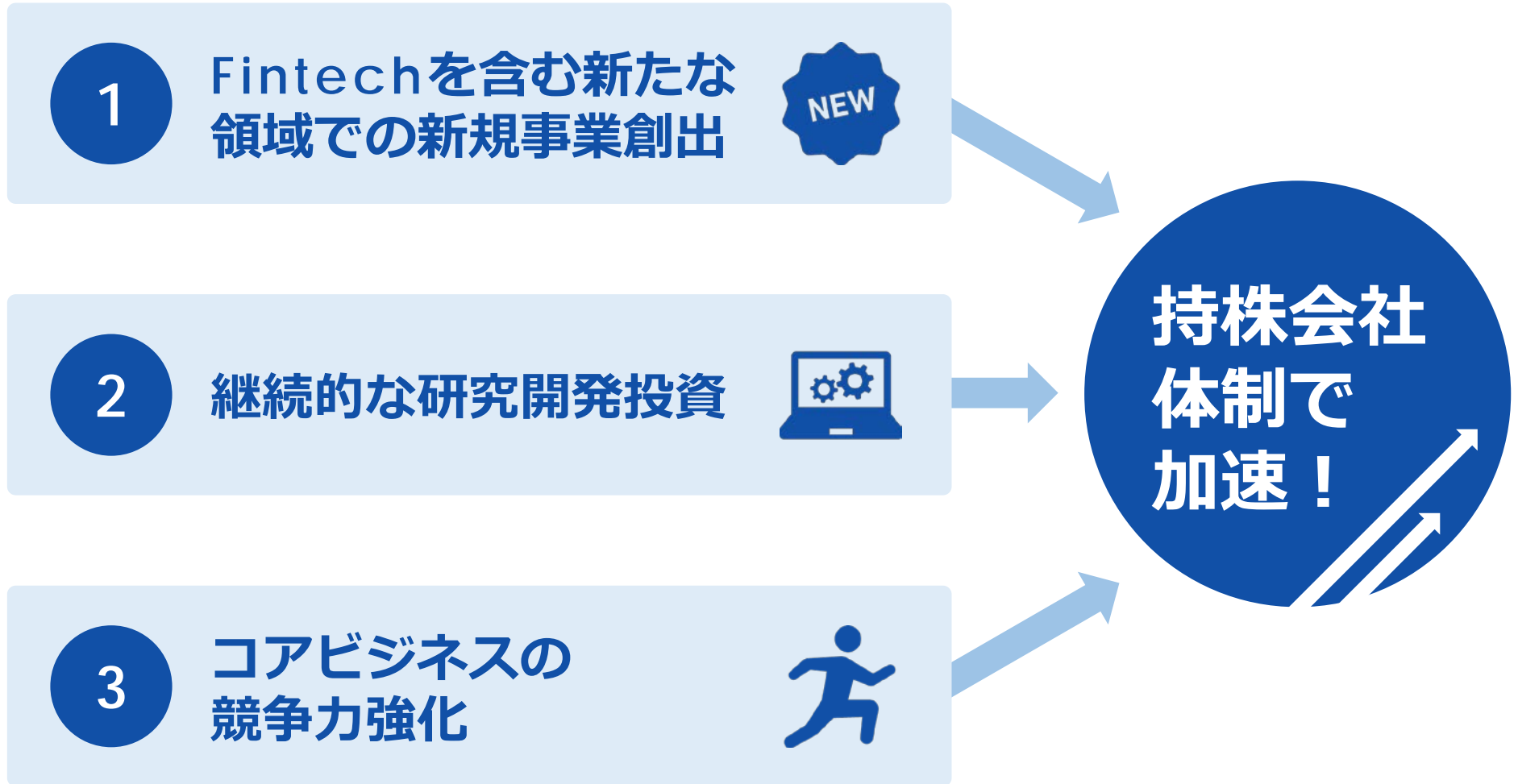
市場環境の変化に対応した**迅速な意思決定**で**機動的・効率的**に事業運営



③ M&Aの加速

革新的なテクノロジーの活用による**収益モデル**の多様化や**新規ビジネス機会**の創出を加速

中期経営戦略（2017 - 2019）の基本方針



2017年12月期 通期業績予想

中期経営戦略を確実に実行し、持株会社体制への移行による
効率的な事業運営、コスト最適化等の推進により、
売上高126億円、営業利益5億円、EBITDA6.7億円達成を目指す

(単位：百万円)

	16年12月期 実績	17年12月期 業績予想	差額	前年同期比
売上高	12,080	12,600	+520	+4.3%
営業利益	474	500	+26	+5.4%
経常利益	389	480	+91	+23.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	254	320	+66	+25.7%
EBITDA	653	670	+17	+2.5%

当期・次期の配当

当期配当予定 (2016年12月期)

当期は、2016年2月2日に公表しましたとおり、利益配当を実施せず、**研究開発活動**を優先的に行い、中期経営計画の実現を目指しました。



次期配当予想 (2017年12月期)

現時点での業績予想を前提に、1株当たり5.0円の復配を予定しています。

	第18期 2014年12月期 (前々期)	第19期 2015年12月期 (前期)	第20期 2016年12月期 (当期予定)	第21期 2017年12月期 (次期予想)
年間配当	5.00円	0.00円	0.00円	5.00円

サイオスについて



SIOS is Innovative Open Solutions

本社	東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
資本金	1,481百万円
設立	1997年5月23日
社員数	連結460名（2016年12月31日現在）
主な 連結 子会社	SIOS Technology Corp. (米) グルージェント(日) Gladio, Inc. (米) キーポート・ソリューションズ(日) Profit Cube(日)

サイオステクノロジーは、Linuxに代表される**オープンソースソフトウェア**の開発と利用を軸に、自社開発ソフトウェア製品の販売とサービスの提供を行っています。直近では、**AI（人工知能）、Fintech（金融技術）、クラウドコンピューティング**の技術領域に注力し、次世代を支える新製品とサービスの提供を開始しています。

これからも**革新的なソフトウェア技術**を追求し、世界のIT産業に影響力のある存在、「**インフルエンサー**」となって価値を創造し、社会の発展に貢献してまいります。



項	用語	説明
4	Fintech (フィンテック)	Finance (金融) とTechnology (技術) の融合による新たなテクノロジーのこと。
4	SIOS iQ	仮想及びクラウド環境においてアプリケーションの稼動状況を包括的に監視・分析・最適化し、パフォーマンスや効率性の向上、信頼性保護を図り、複雑な課題を解決する製品。
4	OSS (オープンソースソフトウェア)	ソフトウェアの設計図にあたるソースコードを無償で公開し、使用・改良・再配布ができるソフトウェア。
4	LifeKeeper	本番稼動のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うソフトウェア。
4	MFP向けソフトウェア製品	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP (Multi Function Peripheralの略) という。MFP上で利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」等の開発・販売・保守。
14	機械学習技術	人間が行っている学習能力と同様の機能をコンピューターで実現しようとする技術、さまざまなデータから有益な情報を発掘するもの。
22	クラウド	コンピュータ処理をインターネット経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

ご留意事項

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。

本件に関するお問い合わせ

サイオステクノロジー (IR)
Tel : 03-6401-5111 (代表)

Webによる場合はこちらからお問い合わせください

https://lp.sios.jp/MRK_Inquiry_IR.html



SIOS